



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2

Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831

E-mail: noudai@pref.aichi.lg.jp

ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



切花専攻

CONTENTS

- 1 農大のスマート農業の取り組み
- 2 学生クラブ紹介 (茶道部、フットサル部)
- 3 専攻紹介 切花専攻
- 4 専攻トピックス
- 5 研修紹介 農業者育成支援研修
- 6 トピックス
終業式
オープンキャンパス開催
おかざきかき氷街道へモモなどを提供
第1回進路セミナーを開催
生産高度化研修 (イチゴ、稲等種子生産) を開催
- 7 お知らせ
オープンキャンパス、令和4年度入学者選抜試験

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram



Twitter





特集

農業大学の スマート農業

スマート機器で一貫体系
作物専攻

「この田植え機は、まっすぐぐきれいに植えられる！」「バックや転回も自動でできるつて、すごい！」……。全自動田植え機に乗った作物専攻の学生から驚きの声があがりました。

作物専攻では、メーカー（株）東海近畿クボタ等）の協力を得て、全自動田植え機やコンバイン、ドローン、自動水位計などのスマート機器の実演を行っています。

また、クボタのスマートアグリシステム「KAS（ケーサス）」で、パソコンやスマホを使って、ほ場管理、肥培管理、作業計画、作業記録や作業進捗管理を行っています。「KAS」は、実演で使用するスマートコンバインや自動田植え機とも連動しており、苗量、施肥量、収穫物の成分分析データなども見ることが出来ます。このため、学生はパソコンやスマートフォン上で、ほ場の状態や作付け状況、それに合わせた施肥・薬剤散布などの管理状況を一目で見ることが出来ます。このデータをもとに、詳細な施肥設計や玄米中の水分・蛋白含量を測定しながらの収穫を行ったり、適切な肥培管理や収量・品質データなどを考えながら取り組んでいます。

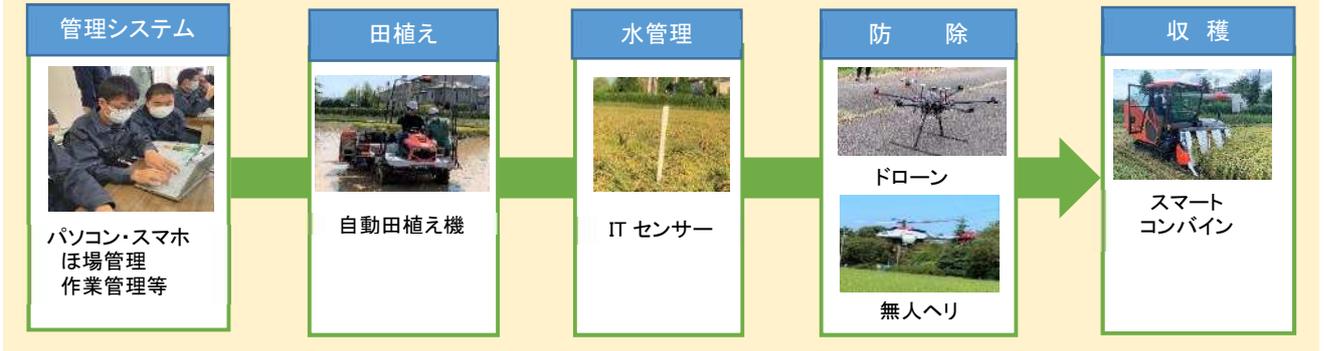
スマート技術を活用した
プロジェクト研究



卒論発表で優秀賞を受賞した平野くん

昨年度、水田の水管理を省力化するため、水温や水位を自動で測定できる環境測定ITセンサー「ミハラス」をメーカー（名三工業（株））を活用し、学生のプロジェクト研究（「コシヒカリの深水栽培による高温対策」）を行いました。プロジェクトの結果、白未熟粒が減少し、高温対策に繋がりました。学生は、「どの程度の水位での深水管理が高温対策に繋がるかITセンサーでデータが取ることができた。」と充実した表情でした。また、「スマートフォン上でリアルタイムの水位を見ることができるとため水管理が容易になり、ほ場の見回り時間を短くすることができる！」と実感していました。

作物専攻のスマート農業教育



スマート技術導入による教育効果

ICTを活用することで、農業機械の自動化に繋がるとともに、作業を行いながら様々なデータを得ることができるとなりました。そのため、経験が少ない学生も積極的に機械を扱ってくれるようになり、学生のやる気を引き出す結果にも繋がっていると思います。

今後の展望



作物専攻担当
古川先生

今後は、学生の教育のため農業大学校内でもスマート農業に対応した農業機械の導入を進めていく必要があると感じています。

また、新たな取り組みとして、ドローンを使用したリモートセンシングを行い、センシング結果を解析することで、生育のばらつきや追肥の有無を判断できるような取り組みを行っていきたいと考えています。

ICT温室で栽培環境を学ぶ 施設野菜専攻



施設野菜専攻のICT温室は、令和元年3月に完成したトマト栽培専用の温室です。この温室は、日照条件を良好にするため、軒を4mと高くした「高軒高ハウス」で、デンスローの統合環境制御機「プロファーム」を導入し温度、湿度、日射量、炭酸ガス濃度など施設内の様々な環境を植物の生育に最適な環境にプログラムされています。また、パソコンによりハウス内環境を数値で把握することができます。

学生は、温室の環境を一目で見ることができると、環境データの数値を

把握しながら管理ができます。例えば、日射量の数値を見てカーテンを閉じたり、炭酸ガスの濃度低下を数値で確認して炭酸ガス施用量を決めるなど、設定する数値を学生と話し合いながら管理しています。

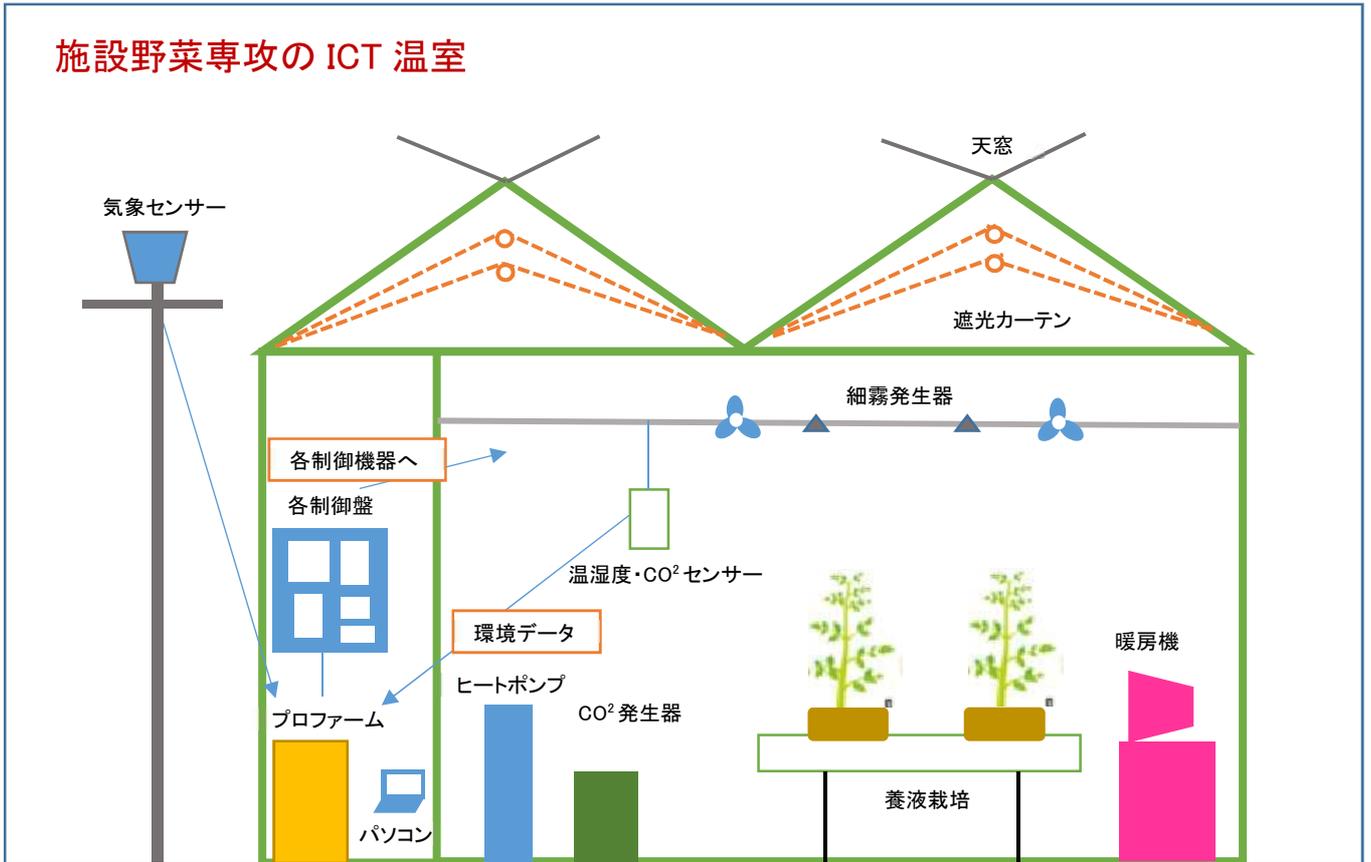
ICT温室を担当する3名の学生は、「環境制御による収量向上や品質向上、現場の最新技術を肌で感じる」ことができる「使いこなすにはまだまだ勉強が必要だ」と意欲的に取り組んでいます。



ICT温室を活用した プロジェクト研究

現在、ICT温室を担当する3名の学生は、環境データを見ながら温湿度やCO₂など細かくプログラム制御ができるICT温室と、従来の温湿度管理による温室との環境の違いが生育に与える影響などについてプロジェクト研究に

施設野菜専攻の ICT 温室



取り組んでいます。ICT温室では光合成に關与する光や湿度などを植物の生育に適した条件にすることが容易であるため生育差が認められるようです。今後、12月のプロジェクト研究の発表会に向けてデータをとりとまとめていく予定です。



スマート技術導入による教育効果

ICT温室の導入によって、今まで校外学習など現場で話を聴くだけだったスマート農業技術を、実際に学生自身が経験できます。自分たちがトマトの生育に適した温湿度管理をしていることがあつているのかどうか実際のデータを見ることが学生のやる気にもつながっていると思います。また、プロジェクト研究以外に、全員に実際のデータを

用いた講義を行うことができ、環境制御技術に關心を持たせることができました。就農する学生や指導員等をめざす学生にとつては、将来に役立てるこ



施設野菜専攻担当
小嶋先生と吉田先生

とができると思います。

今後の展望

今後は、ICT温室での収量性を高めることを専攻学生の目標とし、そのために環境制御の管理技術の精度を高めていきたいと考えています。ICT温室導入を機に学生は生育調査を定期的に行うようになりました。生育調査を通じ、植物の状態を数値で確認することで、これからも学習効果を高めていきたいと考えています。



学生クラブ紹介

茶 道 部



部員数 11名
（男子4名 女子7名）
活動日時 水曜日 18:00～
活動場所 旧本館1階和室



こんにちは茶道部です！私たちは週1回、外部講師の安藤宗艶先生をお呼びして稽古をしています。初心者ばかりなので、みんなで仲良く教えあっています。毎回違う季節の和菓子を頂きます。作法を学びながら季節感も感じられる、とても楽しい部活です！

（部長 河合あいら）

フットサル部



部員数 20名
（男子18名 女子2名）
活動日時 水曜日 17:30～
活動場所 体育館



みなさんは運動することが好きですか？僕達は大好きです！毎週水曜日にフットサルを楽しんでいます。9割以上が初心者で、どなたでも参加できます。楽しく運動し、汗を流し、爽やかな気分になれるのが、特徴です。良かったら皆さんも僕達と一緒にフットサルを楽しみませんか？

（部長 片山 魁真）

専攻紹介

切花専攻

切花専攻は、愛知県の花の未来を担う“元気な学生”19人(2年生14人、1年生5人)がメンバーです。

広さ1,400m²の温室や500m²の露地圃場で、全国一の花の生産額を誇る、愛知県の代表的な切花のキク、カーネーション、バラのほか、ヒマワリ、ケイトウ、ストック、ベニバナなど、年間7.5万本を3つの部門(キク、バラ、洋花)に分かれて栽培しています。

栽培した植物は、毎週水曜の実習販売や毎年12月に行われる農大祭で販売しています。バラ、ストックなどを組み合わせた華やかな花束や、キク、サカキなどの仏花が人気です。また、入学式や卒業式の壇上の花束づくりでは、日ごろの実習の成果を存分に発揮し、式を華やかに彩っています。

私たちは、実習や販売を通じて、花の魅力を身近に感じながら、日々の実習を明るく、楽しく行っています。



キク



需要期(物日)にあわせた電照栽培を基本とし、露地で小菊も栽培しています。県育成品種の試作も行っています。

【栽培種類】
一輪ギク、スプレーギク、小ギク



バラ



ロックウール培地を用いた養液栽培を行っており、アーチング方式での管理の他、改良切り上げ方式も試行しています。

【栽培種類】
バラ(スプレー、スタンダード)



洋花



洋花部門ではヒマワリ、ストックなど、一年を通して様々な花を育てています。白花に染色したりして、楽しく実習しています。

【栽培種類】

カーネーション、ヒマワリ、ケイトウ、ペニバナ、ノコギリソウ、ミント、ストック、ハボタン、ガーベラなど



花束づくり



毎週水曜日は、実習販売用の花束づくりで最も忙しく、華やかになります。どんな花束がお客さんに喜ばれるのかを想像しながら、楽しく実習しています。



先進農家への視察研修



プロジェクト調査



農大祭で恒例の花販売



アレンジ演習



実習販売



切花専攻で作った
入学式の壇上の飾花

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

各専攻の様子は、農大のInstagram、ツイッターで情報発信しています。



6月22日に露地野菜専攻は加工演習を行いました。今回の加工演習ではナスのひき肉重ね焼きやコーンクリームスープ、キュウリのピクルスなど夏野菜をふんだんに使った料理を作りました。コーンクリームスープに使ったとうもろこしは収穫時の糖度が18度を超えるものもあり、スープに使うとトウモロコシの旨味が口全体に広がると学生に好評でした。トウモロコシは水曜日の直売で販売しているので購入した際には試してみてください。

育てた野菜を
さらにおいしく！



施設野菜専攻では昨年の9月からトマト、ナス、キュウリなどを栽培しており、7月で収穫を終了しました。2年生は長期で調査していたプロジェクトが終わり、これからは1年生が主体となって育苗から栽培を行います。また、7月末〜8月にかけては温室メロンの出荷を予定しています。一部病害などが発生していますが、昨年生育不良で出荷できなかった悔しさを胸に学生主体となり栽培管理を頑張っています。

あとは…
メロンを残すのみ！



7月15日に岡崎市の農業法人の「有限会社小久井農場」、豊田市の味噌加工業者「合資会社野田味噌商店」を訪問しました。小久井農場では堆肥を利用した土づくりの大切さと6次産業化への取り組みについて、野田味噌商店では日本一の桶を活用した味噌造りについて勉強することができました。

校外学習で日本一の
味噌造りを体験！！



6月25日、2年生が農産加工演習で、農大で収穫したアズキを用いたジャム作りを体験しました。丁寧に煮込んだおかげで綺麗に発色し、満足な出来になりました♪。ヨーグルトにかけたり、クラッカーに付けて試食しましたが、とても美味しかったです♪。今後は、イチジクやミカンのジャム作りにも挑戦する予定です。

今年も美味しい
ジャムができました♪





キク農家さんのお話を聞く

2年生14名が、知多地域の輪ギク農家2軒を見学しました。県内のキクの大産地といえ、渥美半島ですが、栽培品種を変えて差別化を図ったり、ハウス内の環境データをリアルタイムで記録して水やりのタイミングを決めたりなど、大産地に負けないようにこだわりのもって栽培していることがわかりました。農家さんの熱のこもったお話を聞いて必死にメモを取る学生たち、学んだことを農大で活かせるよう頑張っています。



花き市場の仕組みを学びました

6月7日2年生が、花き市場の仕組みを学ぶため、愛知豊明花き地方卸売市場に校外学習にいきました。

鉢物取扱高全国1位の市場で、価格決定、鉢物流通機能に加えて、農業者への商品提案、販路拡大等も行っており、農業者とともに花き生産と消費を支えていることがよく理解できた様子でした。



牛の洗浄、始めました

7月に入り、本格的な夏が近づいてきました。作業を行う学生は夏バテが心配ですが、それは牛も同じです。牛が持つ第一胃内では常に発酵により熱が生産されているため、夏でも天然の「湯たんぽ」を手放すことができません。そのため暑さに弱く、少しでも体を冷やすために牛の洗浄を行っています。これからも暑い日が続きますが、牛も人間も体調に気をつけながら頑張ります!!



鶏卵の直売を学びました

7月12日に2年生が愛知牧場と浮野養鶏に校外学習に行きました。

愛知牧場では観光牧場の経営戦略と6次産業化について、浮野養鶏ではGPセンターと鶏卵の直売について学びました。学生は、GPセンターの最新の機器を見て、感銘を受けました。



研修紹介

農業者育成支援研修

農業者育成支援研修は、新たに農業をめざす方々を対象に、就農に必要な基礎的な技術や知識を習得するための研修です。平成11年に始まったこの研修は、いままでに139名の方が修了し、8割以上の方が就農しています。受講生には、定年退職になってUターンを目指す方、新規で農業を始める方、福祉事業所や企業に農業部門を立ち上げるために研修を受講される方などさまざまです。

研修プログラムは、実習を中心に、座学や実際の農業現場の実習や視察など幅広く行われます。



実習は、毎週、月・水・金曜日の午前中に全員で栽培技術の管理を学ぶ共同実習と、昼からは研修生が作目、品種を決め各ほ場で責任をもって栽培管理を行う個別実習が行われています。

座学は、各専門の講師から野菜づくりの基礎や病害虫の防除、農業機械、作付け計画、就農に必要な知識などを学びます。



令和3年度は5月17日に11名の研修生が受講して始まり、1月24日までの8か月、約100日間研修が行われます。

夢を応援する研修スタッフ



(水野) (高橋) (稲垣) (豊田)
(中村) (福井) (永井)

研修生の声

森田 賢さん(27歳)



農業高校卒業後に造園会社に勤めていましたが、以前から農業を始めたい気持ちがありました。そこで、地元の豊田加茂農起業支援センター(農業改良普及課)に就農相談をしたところ、この研修を紹介され参加することになりました。研修に参加した感想は、「いままで自宅で家庭菜園をしていましたが、この研修で本格的な農業を学べて毎日が楽しいです」とのこと。これから研修ではトラクタの操作など農業機械を勉強できることを楽しみにしているそうです。

春田琢磨さん(39歳)



介護事業(株式会社 風)を営んでいます。28歳で介護事業所を自ら立ち上げて、現在約40名のスタッフをかかえています。デイサービス事業で地元農業者の体験農園に参加しており、収穫物は事業所の昼食に活用して提供しています。この事業を通じて、自分たちで農園をもって障がい者が生きがい、主役となるような農園を作りたいという夢を持つようになりました。そこでこの夢を実現するため、研修に参加しました。研修に参加して「いままで知らなかった農業の知識や栽培技術など驚きの毎日です」と言われる春田さんは、農業を始める準備で大忙しの毎日ですが、夢に向かって取り組んでいます。

この研修は、若い方、女性、社長さん、福祉事業者など多様な方が参加していますが、みなさん意欲的で圧倒されています。

ぜひ、就農に向けたそれぞれの夢が実現できるよう、講師の先生方、スタッフ全員で応援していきたいと思っています

(研修担当 福井)



トピックス

終業式 夏休みへ

7月16日（金）終業式が行われました。
今回は、新型コロナ対策のため、1年生と2年生を時間をずらして行いました。
堤校長からは、7月までの4か月についての感想や、夏休みの過ごし方、就職活動、派遣研修などの校長講話がありました。
終了後、学生それぞれは当番を除いて帰宅の準備に入りました。9月1日にはまた、元気な顔を待っています！



堤校長の講話

オープンキャンパスを開催しました

7月3日（土）第1回、10日（土）第2回、27日（火）第3回オープンキャンパスを開催し、計133名の学生、保護者の参加がありました。

今回のオープンキャンパスは、学生会の協力を得て、学生に参加してもらい、自分たちの経験や感想、アドバイスをってもらうという形式で初めて行いました。自分たちの年齢に近い年齢、校内を巡るキャンパスツアーの際には参加者から学生へ質問したりしていました。

参加者からは、「学生さんのリアルな話がとても参考になりました。入学できたらうれしいです。」「全国でもトップクラスの学校で広さや寮、授業も充実していて技術力をつけるのによい学校だなと思いました」など好評でした。



① 概要説明



② 学生がポイントを説明



③ キャンパスツアー



④ 学生が質問に答える



⑤ 農産物の展示・販売

おかざきかき氷街道へモモなどを提供

岡崎市額田地区では地元で採れた果樹やお茶を使ったかき氷を提供する『おかざきかき氷街道（岡崎市額田地区）』を地域おこしとして取り組んでいます。

本校では、この取り組みに対して地域連携として果樹専攻が栽培したモモやブルーベリーを提供しました。

提供したお店ではもものかき氷を『農業大学の生徒さんたちがつくったピーチピチ！なモモを使ってつくったかき氷』とPRし販売したところ、お客さんから「すごくおいしい！」と大好評でした。

今後も、農大産のいちじく、ぶどう、梨などをかき氷の素材として提供し、地域おこしに一役をかっていく予定です。



第1回進路セミナーを開催

7月8日(木)1年生を対象に第1回進路セミナーを開催しました。セミナーでは、ハローワーク刈谷の竹下さんから「就職活動の取り組みについて」、農大担当職員から「具体的な職活動の手順」の説明をしました。

1年生にとっては、就職など進路については、まだ実感がわかない様子でしたが、早めのスタート・準備をするよう促しました。



生産高度化研修「イチゴの生産安定」開催

6月25日(金)にイチゴ生産者、JA職員等72名が参加して「イチゴの生産安定」に関する研修会を開催しました。研修ではトヨタネ株式会社佐々木講師が「環境制御と生産向上技術」、県農業総合試験場研究員が「イチゴの新系統の紹介」、JAあいち経済連から「市場情勢について」の3講演がありました。

質疑応答では、イチゴの生産安定に向けた積極的な討議が行われ、参加者の新品種や環境制御、市場情勢などへの関心の高さがうかがえました。



生産高度化研修「稲等種子生産技術」開催

7月9日（金）「稲・麦・大豆の種子生産に係る法律等の改正と優良種子生産技術」をテーマに生産高度化研修（採種）を開催し、採種農家及び関係機関67名が参加しました。講演は、「改正種苗法（令和2年12月）」を農林水産省知的財産課、「愛知県種子条例（令和2年4月）」を県園芸農産課、「優良種子の生産技術」を県米麦振興協会を講師に行われ、法律等馴染みのないテーマであったが、分かりやすい説明で理解を深めることができました。



お知らせ

愛知県立農業大学校

オープンキャンパス 2021 開催

下記の予定で開催します。本校の学生も参加して交流を深める機会もあるので、農大への入学に関心がある方はぜひご参加ください！

第4回 2021年8月3日（火曜日）
第5回 2021年8月24日（火曜日）

- ※ 各回とも午前9時50分～正午
- ※ 事前に参加申し込み（電話、メール）が必要です。

（内容）

- 農業大学校の概要説明
- キャンパスツアー（各専攻施設等の見学）
- 在校生との交流
- 受験相談等（希望者のみ）

詳細は本校ホームページを御覧ください。

愛知県立農業大学校

令和4年度 入学者選抜試験

●特別推薦入学試験

出願期間 9月14日(火)～9月17日(金)
試験日 9月30日(木)
合格発表 10月8日(金)
試験科目 面接試験
募集人員：20名程度（各専攻5名程度）



●一般推薦入学試験

出願期間 9月29日(水)～10月15日(金)
試験日 11月1日(月)
合格発表 11月12日(金)
試験科目 小論文（800字以内）面接試験
募集人員：定員100名のうち2／3程度

●一般入学一次試験

出願期間 11月11日(木)～11月26日(金)
試験日 12月10日(金)
合格発表 12月21日(火)
試験科目 数学Ⅰ、小論文（800字以内）、面接試験
募集人員 定員100名の内、推薦入学合格者を除く数

・詳細は、本校ホームページを御覧ください